

基礎ゼミナールⅡ

外部講師のお話

学校教育と色覚 —色覚の多様性を理解する—

講師の先生について

NPOひとにやさしい色づかいをすすめる会
林羊歯代先生（愛知産業大学）

—色覚の多様性を理解する—

基礎ゼミナールⅡ

授業のテーマ

専門的な学びを深め、教育行政、福祉、子育て支援等の問題に関心を持ち、学習を通じて教育現場で求められる支援的な態度を身につける。

本講義の目的

色覚に関する講話と演習により知識と理解を深め、色覚に特性のあるこどもへの支援について考える

色覚に関する知識

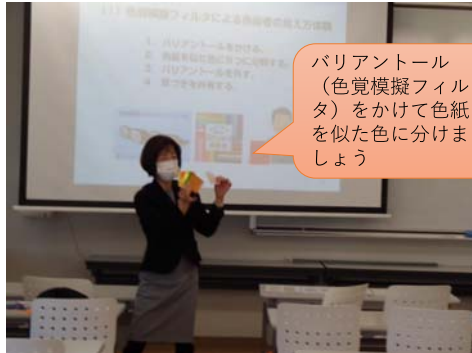
色覚に課題がある人は、男子のおよそ5%、女子のおよそ0.2%いるといわれています。



色弱と言っても、それぞれの見え方が違います。



見え方の体験



バリエーション
(色覚模擬フィルタ)をかけて色紙を似た色に分けましょう

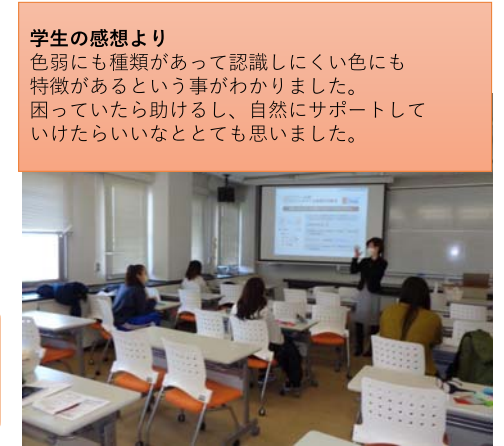


思っていたのと違う。

見え方の体験



学生の感想より
色弱の人の見ている色の世界を体験することができました。
パワーポイントの色使いや、深緑色の黑板には赤いチョークを使う時には注意が必要だということ学びました。



学生の感想より
色弱にも種類があって認識しにくい色にも特徴があるという事がわかりました。
困っていたら助けるし、自然にサポートしてあげたいなとも思いました。

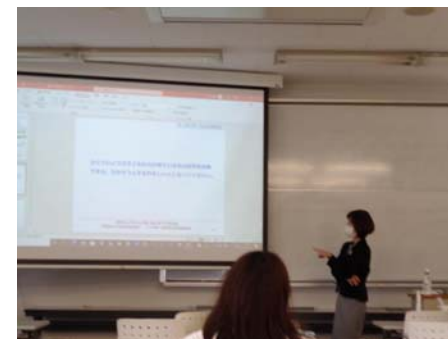
見え方の体験

学生の感想より
どの色が見にくいかなど色覚特性の詳しい知識を知り、今後の教育や生活に活かしていきたいと思いました。



学生の感想より
ひとりひとりの子どもたちが見ている色の世界を想像できる、わかろうとするやさしい人になろうと思いました。
教職員が色覚特性に関する正確な知識を身につける必要があると思いました。

林先生、大切なお話を
ありがとうございました



ひとりひとりの子どもたちが見ている色の世界を想像できる、わかろうとするやさしい人になってください



色弱を理解するための参考図書も紹介していただきました